

全日本ラリー第5戦

鎌田豊選手 (CMSC道北) 地元開催を制し2勝目!!

CMSC道北
鎌田 豊

全日本ラリー第5戦優勝記

7月8、9日の2日間スキーでお馴染みトマムの「アルファリゾートトマム」をスタートしメロンで有名な夕張市の「マウントレースイ・スキーリゾート」をゴールとする、全長300キロの'95全日本ラリー第5戦「'95ノースアタックラリー」に参戦しました。

今年は第2戦で優勝したものの、リタイヤが2回に5位が1回と、あまりパツとしない成績です。しかも今回は地元北海道開催とあって、優勝しても当然と思われてしまいます。まわりからのプレッシャーもありましたが、逆にそれをエネ



▲喜びの鎌田選手(左)。



▲地元優勝へひた走る鎌田ミラーージュ。

ルギーにしてやろうと思ひ、自分でも、優勝するんだと言い聞かせてスタート。好天に恵まれてのドライコンディションのコース状況の中、第1ステージで好スタートが切れ、第2ステージで少し追い上げられたものの、第3ステージでもう一度スタート前の気持ちを思いだしスパート。

結局、今年好調の田口選手を3秒離して、今季2勝目をあげることができました。

車のセッティングもうまくいっていたので、今回だけは負けたくありませんでした。正直言って地元開催有利のプレッシャーは相当ありましたが、勝ててホッとしています。

北村 (CMSC岐阜) 荒井 (CMSC群馬) 両選手で全日本ダートラリー第4・5・6戦を連勝

'95全日本ダートラリー第4戦「'95ダートトライアルin北海道」は6月17・18日北海道砂川市「オートスポーツランドスナガワ」で9クラス135台が前半戦最後の熱戦を繰り広げました。激戦区のAIVクラスは'94シリーズチャンピオンで今季も第2戦に優勝している北村和浩選手 (CMSC岐阜) が、第2ヒートのラストスタートで1分33秒448を叩き逆転。劇的な2勝目を挙げました。北村選手は「いつもどおり慎重に走りましたが逆転優勝できてうれしいです。今後の戦いが少し楽になりました」と後半戦へ新たに意欲を燃やしていました。

そして今季後半戦のスタートに当たる'95全日本ダートラリー第5戦「第17回DCCSダートトライアル」は7月16日栃木県黒磯市「丸和オートランド那須」に8クラス133台の参加で行なわれました。ランサーエボIIIが3連勝しておりランサー勢同士の優勝争いが注目されるAIVクラスは、今季まだ優勝を決めていない荒井信介選手 (CMSC群馬) が第1ヒートから快調に1分45秒82の好タイム。午後遅くなるに従って、雨が激しく、コースは完全なウェットコンディション。第2ヒートはほとんどの選手が第1ヒートより数秒遅れる状況で荒井選手が今季初優勝に輝きました。荒井選手は「後半戦どうしてもポイントが欲しかったところで、1本目のタイムで勝負が決まりちょっとラッキーでしたが、これで気分良く後半戦を戦って行ける気



がします。残り3戦がんばります」と喜びのコメントでした。

続く'95全日本ダートラリー第6戦「CCCRスーパーズプリント'95」は8月27日長野県松代町「スポーツランド信州」に9クラス135台が参加。AIVクラスは毎大会ランサーエボIIIのエントリーが目立っていますが、今回も18台中13台を占める盛況ぶり。そんな中でポイントランクのトップを走る北村和浩選手 (CMSC岐阜) は第1トライから1分36秒14のベストタイムをマーク、今季3勝目を挙げると共に有効ポイントを82に伸ばし、シリーズチャンピオンに向け、また一歩力強く前進しました。4位まではすべてCMSC勢がズラリと並び、また1～6位までをランサー勢で独占しました。



写真上左 第4・6戦優勝の北村選手の走り。写真上右 第5戦を制した荒井ランサー。写真右 荒井選手。写真下 第6戦1～3位独占CMSC勢。優勝北村、2位荒井、3位宝田の各選手。



8月26日(土) エビスサーキット(福島県二本松)

200名、87台参加の'95CMSC全国大会



開会式、外川会長の挨拶



8月26日、'95CMSC全国大会が開催されました。今年も、福島県二本松にある東北サファリパーク・エビスサーキットで開催され、全国から200名にのぼる参加者が集まりました。前回同様、千葉三菱の篠崎相談役をはじめ、全国主管販売会社の方々にもご参加いただいたの盛大な開催となりました。

当日早朝から、地元CMSC福島のメンバーと大会スタッフによる会場セッティングが行なわれ、9時から受付開始。各者車検の後、入念に慣熟歩行が行なわれて、いよいよ開会式。外川会長の挨拶の後、ドライバーズミーティングが開かれ緊張感が高まってきました。このままスタートということになるとチョット大変そうだったので、少し緊張を和らげようと参加者全員での写真撮影と、各支部毎の記念撮影。よく写っていますか!?

第1ヒートのスタートは正午から。CMSC福島

の試走後、A-II、LADYS、OPEN、A-IIIの順にスタート。いつもながら、全国大会の楽しい雰囲気なかでも、ドライバーはステアリングを握ると本能が目覚めてしまうものですね。A-IIクラスの2位争いは0.22秒差、A-IIIクラスでは1位から3位が0.73秒差という大接戦。まさに真夏のデッドヒートといった感じ。また、新設の鹿兒島支部から参加の山口選手(全日本ラリードライバー)は、ラリーアートジムカーナ車のランサー(CD5A)での参戦でしたが見事に9位入賞して鹿兒島の存在をアピールしていました。会場全体は真夏の太陽の下、明るく家族的な雰囲気なかで和やかな時間が過ぎ、ご家族連れのかたにも充分楽しめたのではないかと思います。

そして舞台は表彰式へ移り、クラス別、団体表彰の後、外川会長より「モータースポーツと云えども、究極は人、人の輪が一番大切なこと

です。その意味で、メンバーが一堂に会して、出会い、なごみあうCMSC全国大会は他に類を見ない意義ある集いです。次回も今年以上のメンバーが集まってさらに楽しみたいと思います。」との閉会の辞をいただいて第1部は幕となりました。

第2部は、恒例の牛の丸焼きが豪快な、バーベキューパーティー。開宴の挨拶、乾杯の掛け声、打ち上げ花火とともにアクセル全開のパーティーは始まりました。スポットライトに照らされた賞品を争奪するビンゴゲームはいつになく盛り上がりコースアウトもしかねない勢い。各支部同士もなごやかに歓談されていて、夏の一日は歓声と拍手と笑顔の中にとけていきました。

また、次回も皆さんと共に素晴らしい時を過ごしたいと思います。最後になりますが、CMSC福島の皆さん、関係スタッフの皆さんいろいろとありがとうございました。



'95CMSC全国大会 参加各支部紹介



'95CMSC全国大会 クロズドジムカーナ 結果

支部対抗

(各支部高得点3名のポイント合計)

1位	CMSC福島	50ポイント
2位	CMSC山形	28ポイント
3位	CMSC千葉	20ポイント
4位	CMSC栃木	20ポイント
5位	CMSC仙台	19ポイント
6位	CMSC岩手	18ポイント
7位	CMSC大阪	15ポイント
8位	CMSC群馬	12ポイント
9位	CMSC鹿児島	12ポイント
10位	CMSC青森	10ポイント



右から1位福島、2位山形、3位千葉の表彰

A-IIクラス



1位大沢選手(福島)の走り



右より1位～6位の表彰

1位	大沢 順一	福島	1'32'92
2位	佐々木幸人	仙台	1'38'36
3位	庄司 明	山形	1'38'58
4位	鈴木日出明	山形	1'39'58
5位	三枝 重光	岐阜	1'40'28
6位	福島 末佳	大阪	1'40'65

LADYSクラス



1位丸山選手(千葉)の走り



右より3位、1位、2位の表彰

1位	丸山千賀子	千葉	1'48'26
2位	大橋恵理子	福島	1'49'47
3位	山里 直実	群馬	1'50'83

A-IIIクラス



1位下谷選手(栃木)の走り



右より1位～10位の表彰

1位	下谷 光俊	栃木	1'34'21
2位	上泉 晃祥	福島	1'34'85
3位	渡辺 弘	福島	1'34'94
4位	薦谷 英晶	青森	1'36'32
5位	森 新次	香川	1'38'45
6位	国分 弥生	山形	1'38'90
7位	菅野 茂	山形	1'39'47
8位	宇佐美直巳	埼玉	1'40'22
9位	山口 修	鹿児島	1'40'24
10位	後藤 庄悦	仙台	1'41'43

OPENクラス



1位須田選手(福島)の走り



右より1位～3位の表彰

1位	須田 行雄	福島	1'36'96
2位	宮本 和彦	福島	1'39'56
3位	高野 聡	岩手	1'41'51

ご協賛いただいたスポンサー (50音順)

I P F 株式会社
 株式会社旭通信社
 青木科学研究所
 株式会社伊勢丹
 エンパイヤ自動車株式会社
 オーツタイヤ株式会社
 カヤバ工業株式会社
 株式会社キャロッセ
 株式会社サミット
 株式会社タスカエンジニアリング
 株式会社テストアンドサービス
 株式会社東京映像社
 栃木富士産業株式会社
 日本特殊陶業株式会社
 株式会社長谷川製作所
 株式会社ブリヂストン
 ミツワモデル株式会社
 柏崎横浜ゴム株式会社
 株式会社ラリーアート





CMSC大阪 6月4日

ホワイト&CMSCダートトライアル

'95E地区戦の第4戦目として、6月4日に'95ホワイト&CMSCダートトライアルを開催しました。

スムーズな運営に満足

昨年はジュニア戦でしたが今回は地区戦ということでクラブ員もいいコンディションで走ってもらおうと前日のコース整備も十分に行ないましたが、なんと夜からの雨で当日はウェットコンディションになってしまいました。しかし昨年の経験もありスムーズな競技運営

ができ、大変コンペティティブな競技会となりました。結果の方はCIIIクラスのランサーEVIIIが総合1位と三菱賞をさらっていきました。また来年もいいイベントを行いたいと思います。(CMSC大阪 杉本達也)

CMSC鹿児島

山口 修

全日本ラリー第6戦優勝記

'95全日本ラリー選手権第6戦「ひえつき'95」が7月22・23日に宮崎県の椎葉村で行なわれました。実は1ヶ月程前に練習のつもりで参加したダートトライアルで、あろう事か転倒してしまい、車両の修理に手間取り参戦当日の夜中まで整備に追われ、睡眠時間も1時間しか取れず体調は絶不調。序盤の第1ステージを7位と出遅れました。続く第2ステージ、1ステージ終盤に大量の雨が降

悪天候の中、気合いの逆転優勝

ったためウェット用タイヤをチョイス。しかし路面はなんとドライのままダククリ。頑張って3位までは追上げたものの、トップとの差は14秒もついてしまいました。残る第3ステージはSS4本とラリー区間4ヶ所のみ。午後から台風の影響もあり雨、風が強くおまけにガスまで出て最悪のコンディション。しかし得意のナイトステージを気合いで走り抜け何とかフィニッシュ。結果1秒差で逆転、今季初優勝が出来ました。CMSC入会直後の優勝だけにとてもうれしく思います。今後も頑張っていきますのでよろしくお願いします。



CMSC群馬 岩田恒廣

パイクスピーク・オートヒルクライム参戦記

6月26日、現地コロラドスプリングスで1ヶ月前に船積みしたランサーエボIIIの受け取り。コンテナの鍵を開けてもらうと……これは何だ!ランサーはコンテナの中でFTOに追突していました。ボディショップに入院して3日、何とか車検に合格。

練習2日目、レース参加中最大の難問にぶつかりました。申し込んでいたショールームストッククラスはFIA公認レースでない為、参加すると日本に帰ってからFIAライセンスの剝奪になるとの事。そこでクラスをパイクスピークオープンクラスに変え予選を走り、6位でゴールしました。

7月4日アメリカ合衆国独立記念日、決勝の朝。吐く息は白く山の上は雪が降っていました。何十年

伝統の大会で5位、完走

に一度かの異常気象にがっかり。ギャラリーはこの時だけ前日からキャンプが許され、人と車でいっぱい。パドックに競技車が入りサービスが走り回る。例年にない雪路面に対応する為です。スタート直前コース短縮の発表があり、約3分の2のコースで競技開始。スタート順が近づくにつれて、頭の中にコースを思い浮かべる。オイル温度は、タイヤは、酸素ポンベは……。1回のトライで順位が決まります。ワンミスも許されない。プレッシャーが高まる。放映用のテレビカメラ、空にはヘリコプター。ロケーションは最高だ。スタートするとすぐにわかりました。タイヤ選択のミス。これを気にしつつ全開で走る。いやな気持ち。あ〜もう一度タイヤを変えてスタートからやり直したい。スイッチバックのヌチャヌチャ路面をスピンスせず何とかゴールのチェッカーを受けました。辺り一面雪で真っ白。自分の頭の中のようにありました。9'25"2、5位、完走。



写真上 チェッカーをうける岩田車。写真下左 家族とポーズ。力走中の岩田選手。

CMSC大阪 杉本達也

ラリーオブマレーシア参戦記

8月12~14日、'95アジアパシフィックラリー第3戦第19回ラリーオブマレーシアに出場してきました。今回も三菱とスバルの戦いが注目されており、日本から毎年多数の出場者があります。私自身、海外のそれもWRCに並ぶグレードのラリー参加は初めてで、不安と期待でいっぱいでした。

初日、クアラルンプールのど真ん中にあるメディカルスクエアを全面規制した会場からスタート。夕方

念願の海外ラリー初挑戦

に降るスコールで路面は大変スリッピーで、案の定SS4でコースアウトし、大きくタイムロス。その後は慎重に走りましたが今度はエンジンの調子がおかしく思うように走れませんでした。2日目、17箇所のSSが有り、ラリーの山場となりました。バムヤシのプランテーションの中は相変わらずスリッピーで、エンジンもSS中にエンストしたりで苦しみました。プラグが原因と判りようやく調子も上がり14位まで上がれました。最終日、気を抜かず頑張り総合12位、Gr. N6位でゴール。

こうして無事走りきることが出来ました。念願の海外ラリー参加でさらにこの世界の楽しさを味わいま



した。多くの方々のお陰であり、この場を借りてお礼を申し上げます。来年もぜひ挑戦したいです。

CMSC道北 7月30日

CMSC道北ジムカーナ

当日は晴天にも恵まれクラブ員を中心とした20数台がエントリー。日頃地区戦を戦うジムカーナドライバー、そして日頃ジムカーナに縁が薄いラリー、ダートラのドライバーも多数参加してくれました。全日本

有意義で役に立った一日

でも活躍する田口選手がレイアウトしたハイスピードコースでドライビングテクニックを大いに磨き、楽しく有意義な一日になりました。また、オフィシャルとして参加したクラブ員も初めての経験に最初は戸惑いもありましたが、次第にオフィシャルとしての楽しみ方を見出し、今後の当クラブの活動に大いに役立つ経験をする事ができました。

今後も競技会主催に積極的に取り組んでいきま



す。ご支援頂きましたラリーアート様、プリヂェストン様有難うございました。(CMSC道北 栗澤 傑)

CMSC香川 8月20日

'95CMSCアストロトライアル

8月20日、四国では近年希な110台の大量エントリーを集めて、'95CMSCアストロトライアルを坂出番の州特設会場で開催しました。当初予定していたコースは前日の試走で埃がひどく光電管で計時ができず、やむなく短縮することになりまし

大量エントリー110台!

た。競技の方はAIIIクラスでは島根から遠征してきた佐々木選手がミラージュで、AIVクラスでは高竹選手がランサーで、CIIIクラスでは東谷選手がギャランでそれぞれ優勝しました。

10月7、8日にはこのコースで全日本ダートトライアル第8戦'95CMSCダイヤスタートトライアルを



写真左 AIVクラス1位高竹選手。写真右 AIIIクラス1位佐々木選手。

開催します。皆さんの参加をお待ちしています。(CMSC香川 白井 修)

CMSC千葉 勅使川原光

ニュージーランドラリー参戦記

3年目のニュージーランドラリー。昨年より出場メンバーが良く、私の出場クラスのグループNでは、あげたらきりが無いほどの豪華メンバーです。この中で立てた目標が3位。リタイヤ覚悟の目標でした。

7月27日にスタート。SS2のベストタイムでグループNのリーダーへ。幸先の良いスタートで、leg1はグループN6位、日本人クルー1位でした。leg2はマイナートラブルの為、順位を上げられませんでした。leg3のSS23では再びベストタイムと気合いが入ります。しかしleg4ではブレーキトラブル発生で、順位

ハングリー精神で挑戦

キープのまま終了。アタックし続けたかったのですが、スローダウンという非常に残念な結果になってしまいました。

プライベート参加の為、お金をかけずにどこまでやれるか、ワークスに一泡ふかせてやれ、とハングリー精神でやってきました。プライベートとしては非常に満足な結果だと思います。ラリーアートジャーナ一部隊や、三菱ワークスのオルディンスキーよりも速いタイムを出せることが実証でき、後は車を同レベルに仕上げれば(これが一番問題、お金がかかる場所である)十分にトップを争えることが判ったからです。今後の海外活動は未定ですがスポンサーを獲得し、ぜひともワークスと対決したいものです。



CMSC岩手 四戸岳也

'95ツール・ド・東北参戦記

7月29・30日、SS5本(ダート)を含む250kmのラリーは、激戦が予想される中スタート。

私はCクラスに愛車ランサーEvoIIで臨み1STのSS1(3.1k)でベストから3秒、SS2で3秒の差、ナビも無難にこなし1ステージをトップから8秒差の6位で折り返しました。林道ダートは完全な乾燥状態では

自己最高位でフィニッシュ!

こりがひどく、Cクラスの後半セクセンの選手には不利なはずが、シード選手はベストタイムを競い合うラリーとなりました。2STが始まり波乱がおきます。勝負を賭けたBクラスの半数がSS3・4でリタイヤし、Cクラスもトップクラス3台がコースアウトする大変エキサイティングな展開になりました。12CPと5SS(約15km)をこなし翌朝4時30分に弘前のゴール会場に到着した時は、ナビの加藤君と「いやー精魂使いきったジャー!」と言いつつほのぼのとした気分でした。結果はBC地区3戦目で自己最高の4位で終わりました。



した。今後の目標も出来、充実したラリーでした。もっと練習するぞ!!!!

CMSC山形 赤羽政幸

ラリーオブマレーシア参戦記

ラリーを終えた喜びの中、仲間が迎えてくれた最後のサービスで車をきれいにしてもらい、セレモニーに向けてクリアランプールに出発。自分のポジションもあやふやなまま指示に従い隊列を整えました。5分程の道程をセレモニーの行なわれる公園までコンボイするのですが、封鎖された道路を警察官の先導で走った時の気持ち良かったこと。フィニッシュ台でシャンパンファイトが待っているとは思ってもよらず、

嬉しかったシャンパンファイト

初めて成績が分かりました。恐る恐るボンネットに立ち、振りかけたシャンパンは嬉しかった。



1日目は完走 満足感溢れる万歳の赤羽選手(左)。来年の挑戦にも意欲的です。するつもりで慎重な走り。2日目、攻めて走ろうとしましたがコーナーを止まりきれず行き過ぎたりミスコースしたりと、タイムに結び付けられず少々いらいら。これほどの長時間、長距離は初体験で10本位SSを終わった所で根を上げそうになりました。3日目、慣



れてきたせいか気持ちよく走れました。思い切り走りたいのと、完走しなきゃという気持ちで複雑でした。サービスの皆の喜ぶ顔と、楽しかったという言葉が嬉しく、また頑張る来年も海外ラリーに挑戦したいと思いました。

CMSC青森 7月29・30日

'95ツール・ド・東北

今年のツール・ド・東北はJAF地方ラリー選手権BC地区第6戦として開催しました。昨今の状況から参加台数不足が懸念されましたが、CMSC千葉の丹羽選手、CMSC群馬の船津選手を始め多くのCMSCメンバーが参加して下さり、台数も規定の60台に近い58台となりました。また、前日28日にはささ

クラブ員の努力に感謝

やかではありましたが歓迎の意味を込めて前夜祭を行い、大いに盛り上がりました。

さて、ラリーは前年からの集合場所となった岩木山総合公園を午後7時1分にスタート。岩木山周辺から昔(7・8年前)使っていた旧弘西林道を通り1ステージを終了。再スタート後、SSで若干のコースアウトもありましたが翌30日朝方無事ゴール。

数ヶ月前からのコース設定や整備、特にSSコースの草刈りには早朝から多くのクラブ員が協力してくれ、その努力の結果がラリー成功につながった



レース前の情報交換(左)とスタート風景(右)。
思います。クラブ員と関係各位のご協力ご支援に感謝致します。モータースポーツの灯を消す事なく今後もラリー開催を続けて行きたいと思っておりますのでよろしくお祈りします。(CMSC青森 鶴ヶ谷慶市)

CMSC島根

7月16日

日本海シリーズジムカーナ

バブル崩壊以来エンタラントが減る一方の日本海(山陰)シリーズ戦ですが、今年も最盛期の半分以下に落ち込み、運営すら危うくなるような状況でした。しかし今回CMSC島根は「人望(?)」と「営業活動」のおかげで90台のエンタラントと「激晴れ」に恵まれ、幸いでした。特にクローズド勢が3分の1以上を占めるに至っては「未来は明るい!」とオフィシャル一同握

エントリー確保で未来は明るい!?

りこぶしに力をこめて進行しました。完成後日の浅い備北ハイランドパーク新コースでイケイケ全開コースを設定した為「ファーストイン・コースアウト」車が連発し、復旧作業でクラブ員がみるみるうちにポロゾーキンの様になっていく様は涙なくしては語れません。

公認クラスも他シリーズからの乱入組と常連組とが酷暑をさらにアツクする闘いを見せてくれました。当クラブ恒例の「冷たいジュースサービス」「出走写真全員プレゼント」「おまけイベント」「全日本戦より厚い18ページのエンタラントリスト」「莫山発言実況



アナ」等の企画が大ウケで、夕刻まで楽しい一日を過ごせました。来年は何台のエントリーがあるか(特にクローズド陣)楽しみに皮算用をしている今日この頃です。(CMSC島根 古藤浩美)

CMSC島根

8月6日

チャレンジカップダートトライアル

例年のように今回も大会当日はピーカンの快晴。連日の好天で気温もぐんぐん上がりオフィシャルは暑さと埃との戦いとなりました。エントリーは40台弱と寂しかったのですが、しっかりアクセルを踏んでもらえるようにコースを設定しました。

暑さとほこりとの戦い

特に大きなトラブルもなく、スピーディーな運営で競技が進み、エンタラントの皆さんは思いっきりアクセルを踏んでいました。表彰式での三菱賞は特に好評で「これがあるからCMSCのイベントに参加している」といった声も聞かれました。

今年からエンタラントリストに付録が付くようになりました。今までジムカーナで連載していた漫画がとても好評でダートにも掲載することになりました。これは非売品でエントリーすると手に入れることが出来



ます。皆さん、次回是非参加して手に入れて下さい。(CMSC島根 田中 肇)

CMSC帯広

7月23日

ダートラ夏の練習会

今年も恒例になりましたダートトライアル夏の練習会を行ないました。大変よい天気にも恵まれましたが、風向きが悪く土埃が観客の方に来てしまい、車が通

ほこりと日焼けで皆真っ黒

過するたびにみんな逃げ回っていました。第1号車から予定通りの転倒で幕を開けましたが、各車シーズン後半に向けてのセッティングに余念がなく競技会を思わせるような激しい走りを見せてくれました。練習会終了後にはいつものようにジギスカンパーティーを行いました。ダートラ参加者よりも焼肉を楽しみに来ていた人の方

が多かったような気がしますが、埃と日焼けで真っ黒になりながら大いに盛り上がり、楽しい1日を過ごしました。(CMSC帯広 斉藤 学)



道北、首位を快走!青森が4位に浮上。

'95チャレンジカップ

スタート良く飛び出した道北が高得点で2位大阪に491点の大差をつけ独走態勢。青森は道北に次

ぐ高得点で4位に浮上。個人部門では、順位に変化が見られます。次号ではどうなっているのでしょうか。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
道北	959	788			1747
大阪	809	447			1256
群馬	489	596			1085
青森	297	721			1018
山形	413	283			696
岐阜	321	294			615
帯広	398	209			607
島根	331	188			519
浜松	279	226			505
香川	247	214			461
広島	264	186			450
札幌	241	78			319
岩手	152	118.5			270.5
千葉	227	0			227
福島	34	171			205
埼玉	87	65			152
愛知	81	18			99
仙台	55	40			95
栃木	2	50			52
鹿児島	-	40			40

●ラリー・ドライバ部門

田口幸宏	埼玉	91
鎌田 豊	道北	91
杉山 聡	道北	89
小林光敏	道北	81
栗澤 傑	道北	74
大井こずゑ	群馬	73
奴田原文雄	札幌	72
丹羽浩道	千葉	68
四戸岳也	岩手	62
細村謙一	群馬	60

●ラリー・ナビゲーター部門

川村知恵	道北	90
伊吹浩明	帯広	81.5
細村祐子	群馬	60
加藤 徹	岩手	52
山口利久	群馬	33
長谷川好洋	道北	30
金子誠司	群馬	28.5
中村洋次	帯広	24
横山 浩	札幌	20

●ダートトライアル部門

秋間忠之	大阪	576
小出久美子	大阪	484
荒井信介	群馬	300
北村和浩	岐阜	234
宝田芳浩	札幌	206
三浦正博	道北	202
八島功敏	山形	200
榎田正文	岐阜	198
大竹公二	大阪	184
大井こずゑ	群馬	183

●ジムカーナ部門

田口 玲	道北	295
丹羽裕一	道北	240
小館 久	青森	160
久保田明	青森	158
山下 亘	道北	140
小寺久美	道北	140
須田行雄	福島	129
宇野慶一	青森	124
工藤裕史	青森	106
面野 一	帯広	74

●レース部門

小川日出生	山形	105
玉本秀幸	浜松	96
高橋 滋	仙台	44
山川敏宏	山形	36
四戸岳也	岩手	28
川口法行	栃木	19.5
吉沼昭彦	栃木	16

●ポイントのつけ方

ポイント	リタイアには予選不通過も含む											
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
A	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	1
B	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0.5

A = 全日本選手権(含む、レディースクラス)、地方選手権(除く、レディースクラス) 但し、ダートトライアルにはオールスターダートトライアル ジムカーナにはJAF CUPジムカーナ レースにはフォーミュラ・ミラージュ、ミラージュカップ、NI耐久レースを含む B = それ以外の競技会